



一、争議勃發に至るまでの経緯
 右白木工場は菅町山下平兵衛氏の経営に係り造石高年約一萬七千石
 二萬石と稱せらる。従來七十名^名の内外に臨時の使傭者等に十回
 五名を數ふ。勞働者を使用し其の全部が總同盟野田支部に加盟し昔
 りて過般の野田大争議全期間中操業を繼續し右七十名^名の者は各々
 日給の二分の一迄を賺出し争議所に対して有力なる物質的援助をな
 したるものなり
 然して此の間職工達は工場主側が會社の争議を動機として組合に對
 し何等か積極的態度に出づべきを懸念したるものゝ如く自發的に言
 動を慎み作業状態も表面穏分かは改良し専ら工場主の意を迎合するに
 努め工場主亦組合側のこの方策を甘受し敢て進んで組合壓迫の聲に
 出づる等の事なかりき
 會社が社運を賭して勞働組合と懸酬を重ねつゝある折柄結果より見

野田製油株式會社

